

和暦	グレゴリオ暦	数え年	満年齢	干支	
天保11年	1840	1	0	庚子	天保11年庚子(かのえね)2月13日(グレゴリオ暦換算1840年3月16日)武蔵国榛沢郡安部領血洗島村に誕生する
天保11年	1840	1	0	庚子	道光20年5月29日(1840年6月28日)アヘン戦争勃発
天保11年	1840	1	0	庚子	イギリスの科学者ウィリアム・ロバート・グローヴがプラチナフィラメントの白熱電球を発明
天保12年	1841	2	1	辛丑	天保12年閏1月7日 第11代将軍徳川家斉死去(将軍職は既に天保8年4月家慶に譲っていた)
天保12年	1841	2	1	辛丑	天保12年5月9日(1841年6月27日)高島秋帆が武蔵国徳丸ヶ原で洋式砲術と洋式銃陣の公開演習を行う
天保12年	1841	2	1	辛丑	天保12年11月23日 尾高千代誕生
天保13年	1842	3	2	壬寅	道光22年7月24日(1842年8月29日)南京条約で香港島がイギリスに割譲される
天保14年	1843	4	3	癸卯	閏9月13日 水野忠邦が老中を罷免され失脚
天保15年 /弘化元年	1844	5	4	甲辰	天保15年12月2日(1845年1月9日)弘化に改元
弘化2年	1845	6	5	乙巳	アイルランドでジャガイモ飢饉が始まる
弘化3年	1846	7	6	丙午	弘化3年1月26日(1846年2月21日)仁孝天皇崩御
弘化3年	1846	7	6	丙午	弘化3年2月13日(1846年3月10日)孝明天皇即位
弘化3年	1846	7	6	丙午	5月 米墨戦争が始まる
弘化4年	1847	8	7	丁未	医師ゼンメルワイスがウィーンで産褥熱の研究結果を発表しその原因と予防を説く
弘化5年	1848	9	8	戊申	1848年2月 マルクスとエンゲルスが「共産党宣言」をロンドンで発表する
弘化5年	1848	9	8	戊申	1848年2月2日 米墨戦争終結、メキシコは米国にテキサスなどを売却、国土面積は建国時の約半分となる
弘化5年 /嘉永元年	1848	9	8	戊申	弘化5年2月28日(1848年4月1日)嘉永に改元
嘉永2年	1849	10	9	己酉	佐賀藩の依頼によって出島のドイツ人医師モーニッケが天然痘のワクチンを輸入し種痘を接種
嘉永2年	1849	10	9	己酉	カリフォルニアでゴールドラッシュ
嘉永3年	1850	11	10	庚戌	1850年5月28日 ドーヴァー海峡の海底ケーブルの敷設作業が完了
嘉永4年	1851	12	11	辛亥	1851年5月1日 第1回万国博覧会がロンドンで開幕
嘉永4年	1851	12	11	辛亥	メルヴィル『白鯨』出版
嘉永5年	1852	13	12	壬子	1852年12月2日 ナポレオン3世が皇帝となりフランス第2帝政が始まる
嘉永6年	1853	14	13	癸丑	藍葉の買入に商才を発揮
嘉永6年	1853	14	13	癸丑	嘉永6年6月3日(1853年7月8日)ペリーが浦賀に来航
嘉永6年	1853	14	13	癸丑	嘉永6年6月22日 第12代将軍徳川家慶死去
嘉永6年	1853	14	13	癸丑	嘉永6年8月6日 高島秋帆(武蔵国岡部藩にて幽閉されていた)が禁錮を解かれて出獄
嘉永6年	1853	14	13	癸丑	嘉永6年10月23日 徳川家定が第13代将軍となる
嘉永6年	1853	14	13	癸丑	クリミア戦争勃発
嘉永7年	1854	15	14	甲寅	嘉永7年3月3日(1854年3月31日)日米和親条約

和暦	グレゴリオ暦	数え年	満年齢	干支	
嘉永7年 /安政元年	1854	15	14	甲寅	嘉永7年11月27日(1855年1月15日)安政に改元
安政元年	1854	15	14	甲寅	江戸で書籍箱と硯箱を買い父に奢侈を誡められる
安政2年	1855	16	15	乙卯	留守中の姉 なか の病を祓いに祈祷に来た遠加美講(とおかみこう)の修験者を論破
安政2年	1855	16	15	乙卯	安政2年10月2日(1855年11月11日)午後10時ごろ 安政江戸地震
安政3年	1856	17	16	丙辰	父の代理で領主安部摂津守の岡部の陣屋で用金の命を受け封建の弊に対し強烈なる反感を懐く
安政4年	1857	18	17	丁巳	安政4年5月26日(1857年6月17日)日米追加条約(下田協約)
安政4年	1857	18	17	丁巳	レオン・スコットが「フォノグラフ」を発明し音の波形の記録に成功する
安政5年	1858	19	18	戊午	安政5年6月19日(1858年7月29日)日米修好通商条約
安政5年	1858	19	18	戊午	安政5年7月6日(1858年8月14日)第13代将軍徳川家定死去
安政5年	1858	19	18	戊午	10月 尾高惇忠と共に信州に商用旅行、「内山峡」を含む漢詩集『巡信紀詩』を作る
安政5年	1858	19	18	戊午	安政5年10月25日(1858年11月30日)徳川家茂が第14代将軍となる
安政5年	1858	19	18	戊午	安政5年12月7日 従妹 千代(尾高惇忠の妹)と結婚
安政5年	1858	19	18	戊午	12月8日 尾高勝五郎保孝(惇忠・長七郎・千代・平九郎たちの父)死去
安政5年	1858	19	18	戊午	福澤諭吉が江戸の中津藩中屋敷内に蘭学塾を開校(慶應義塾の起源)
安政5年	1858	19	18	戊午	安政の大獄始まる
安政6年	1859	20	19	己未	1859年4月25日 フランス人レセップスがスエズ運河の建設を開始
安政6年	1859	20	19	己未	1859年8月27日 ペンシルヴェニア州でエドウィン・ドレークが石油を掘り当てる
安政6年	1859	20	19	己未	1859年11月24日 ダーウィン『種の起源』出版
安政7年	1860	21	20	庚申	安政7年1月19日(1860年2月10日)勝海舟が咸臨丸で浦賀を出航、1860年3月17日(安政7年2月26日)サンフランシスコに入港
安政7年	1860	21	20	庚申	安政7年3月3日(1860年3月24日)大老井伊直弼が暗殺される(桜田門外の変)
安政7年 /万延元年	1860	21	20	庚申	安政7年3月18日(1860年4月8日)万延に改元
万延2年 /文久元年	1861	22	21	辛酉	万延2年2月19日(1861年3月29日)文久に改元
文久元年	1861	22	21	辛酉	3月17日 サルデーニャ王国によるイタリア統一(リソルジメント)によりイタリア王国が成立
文久元年	1861	22	21	辛酉	4月12日 アメリカで南北戦争が始まる
文久元年	1861	22	21	辛酉	春 江戸に出て海保漁村塾・千葉栄次郎道場に学ぶ
文久2年	1862	23	22	壬戌	文久2年1月15日(1862年2月13日)江戸城坂下門外にて尊攘派の水戸浪士6人が老中安藤信正を襲撃し負傷させる(坂下門外の変)

和暦	グレゴリオ暦	数え年	満年齢	干支	
文久2年	1862	23	22	壬戌	2月 長男 市太郎が誕生したが麻疹(はしか)で8月11日病死
文久2年	1862	23	22	壬戌	2月11日 第14代将軍徳川家茂と和宮(仁孝天皇皇女で孝明天皇の皇妹)の婚礼
文久2年	1862	23	22	壬戌	文久2年8月21日(1862年9月14日)薩摩藩主島津茂久(忠義)の父・島津久光の行列に乱入した騎馬のイギリス人たちを供回りの藩士たちが殺傷(生麦事件)
文久3年	1863	24	23	癸亥	文久3年5月10日(1863年6月25日)長州藩がアメリカ商船ペンブローク号を砲撃(下関事件)
文久3年	1863	24	23	癸亥	文久3年7月2日-4日(1863年8月15日-17日)薩英戦争
文久3年	1863	24	23	癸亥	文久3年8月17日(1863年9月29日)吉村虎太郎をはじめとする尊皇攘夷派浪士の一団(天誅組)が公卿中山忠光を主将として大和国で決起し、後に幕府軍の討伐を受けて壊滅(天誅組の変)
文久3年	1863	24	23	癸亥	文久3年8月18日(1863年9月30日)孝明天皇・中川宮朝彦親王・会津藩・薩摩藩など幕府への攘夷委任(交渉による通商条約の破棄、鎖港)を支持する勢力が、攘夷親征(過激派主導の攘夷戦争)を企てる三条実美ら急進的な尊攘派公家と背後の長州藩を朝廷から排除(八月十八日の政変)
文久3年	1863	24	23	癸亥	8月24日 長女 歌子(宇多子)が誕生
文久3年	1863	24	23	癸亥	9月13日 後の月の観月会と称して徹夜で談論 父市郎右衛門に勘当を願い出て内諾を得る
文久3年	1863	24	23	癸亥	9月23日 喜作と栄一は平岡邸を訪れ平岡円四郎と初めて面談する
文久3年	1863	24	23	癸亥	10月29日 尾高淳忠、尾高長七郎、渋沢栄一、渋沢喜作、中村三平、徹夜で談論、高崎城乗っ取り・横浜異人館焼き討ちの計画を中止へ
文久3年	1863	24	23	癸亥	11月8日 渋沢喜作と共に伊勢参宮と称し嫌疑を避けて出郷し、江戸を経て一橋家人平岡円四郎の家来の名義を以て京都に赴く
文久3年	1863	24	23	癸亥	10月23日 一橋家の側用人兼番頭 中根長十郎が暗殺される
文久4年	1864	25	24	甲子	尾高長七郎が江戸へ向かう道中で通りすがりの飛脚を斬り小伝馬町牢屋敷に投獄
文久4年	1864	25	24	甲子	文久4年2月8日 渋沢栄一は喜作と共に一橋家の家臣となり篤太夫と名乗る
文久4年 /元治元年	1864	25	24	甲子	文久4年2月20日(1864年3月27日)元治に改元
元治元年	1864	25	24	甲子	西郷隆盛を相国寺に訪い豚鍋の饗応を受けて談論
元治元年	1864	25	24	甲子	平岡円四郎の密旨を承けて大阪に赴き、摂海防禦御台場築造御用掛折田要蔵の門に入る。4月帰京
元治元年	1864	25	24	甲子	元治元年6月5日(1864年7月8日)長州藩・土佐藩などの尊王攘夷派志士を新選組が襲撃(池田屋事件)
元治元年	1864	25	24	甲子	渋沢喜作と共に関東の一橋領を巡回し約50人を徴募する
元治元年	1864	25	24	甲子	6月16日 平岡円四郎が暗殺される
元治元年	1864	25	24	甲子	7月19日(1864年8月20日)長州藩勢力が、会津藩主で京都守護職の松平容保らの排除を目指して拳兵し、京都市中において市街戦を繰り広げる(禁門の変/蛤御門の変)
元治元年	1864	25	24	甲子	8月 英仏蘭米の艦隊が長州の馬関と彦島の砲台を砲撃し破壊(四国艦隊下関砲撃事件)

和暦	グレゴリオ暦	数え年	満年齢	干支	
元治元年	1864	25	24	甲子	9月25日 井上聞多(のちの井上馨)が俗論派藩士に斬られれ瀕死の重傷を負う
元治2年	1865	26	25	乙丑	2月下旬 歩兵取立御用掛を命ぜられる。備中・播磨・摂津・和泉の一橋領を巡廻し兵約450名を徴募する。このとき備中寺戸村に阪谷朗廬を訪う
元治2年	1865	26	25	乙丑	1865年4月14日 アメリカ大統領リンカーンが暗殺される
元治2年 /慶応元年	1865	26	25	乙丑	元治2年4月7日(1865年5月1日)慶応に改元
慶應元年	1865	26	25	乙丑	8月19日 勘定組頭となる。一橋家の財政再建のため、年貢米販売先の変更、木綿専売制の施行、硝石製造所設立を推進する
慶應2年	1866	27	26	丙寅	慶応2年1月21日(1866年3月7日)薩長同盟
慶應2年	1866	27	26	丙寅	6月7日 第二次長州征討始まる
慶應2年	1866	27	26	丙寅	7月20日 第14代将軍徳川家茂死去
慶應2年	1866	27	26	丙寅	9月1日 徳川昭致が一橋家を相続、12月1日に家慶から偏諱を授かり徳川慶喜と名乗る
慶應2年	1866	27	26	丙寅	9月7日 幕臣に転じ、陸軍奉行支配調役となる
慶應2年	1866	27	26	丙寅	12月5日 徳川慶喜が第15代将軍となる
慶應2年	1866	27	26	丙寅	新選組の土方歳三副長を同道して大沢源次郎を逮捕する
慶應2年	1866	27	26	丙寅	慶応2年12月25日(1867年1月30日)孝明天皇崩御
慶應3年	1867	28	27	丁卯	慶応3年1月9日(1867年2月13日)睦仁親王が天皇に即位
慶應3年	1867	28	27	丁卯	慶應3年1月11日(グレゴリオ暦1867年2月15日)横浜港よりアルヘー号に乗り組んで出航、徳川昭武に従ってフランスへ(パリ万博使節団)
慶應3年	1867	28	27	丁卯	1867年3月30日 アメリカがロシアからアラスカを購入
慶應3年	1867	28	27	丁卯	8月14日 一橋家の側用人 原市之進が暗殺される
慶應3年	1867	28	27	丁卯	1867年9月14日 マルクス『資本論』第1部刊行
慶應3年	1867	28	27	丁卯	慶応3年10月14日(1867年11月9日)大政奉還
慶應3年	1867	28	27	丁卯	慶応3年11月15日(1867年12月10日)坂本龍馬、中岡慎太郎、山田藤吉が暗殺される(近江屋事件)
慶應3年	1867	28	27	丁卯	1867年11月25日 ノーベルがダイナマイトの特許を取得
慶應3年	1867	28	27	丁卯	慶応3年12月9日(1868年1月3日) 明治天皇より王政復古の大号令が発せられる
慶應4年	1868	29	28	戊辰	慶応4年戊辰(つちのえたつ)(1868年)1月3日 鳥羽・伏見の戦い 戊辰戦争始まる
慶應4年	1868	29	28	戊辰	4月11日 徳川慶喜は謹慎所の寛永寺から水戸へ出発し、江戸城は無血開城
慶應4年	1868	29	28	戊辰	慶応4年5月23日(グレゴリオ暦換算1868年7月12日)従兄 平九郎(渋沢栄一の見立養子となり幕臣の子として彰義隊・振武軍に参加していた)が飯能戦争で敗走中に自刃して死去
慶應4年 /明治元年	1868	29	28	戊辰	慶応4年9月8日(1868年10月23日)明治に改元
明治元年	1868	29	28	戊辰	9月4日 徳川昭武と共にマルセーユを発して帰国の途に就く
明治元年	1868	29	28	戊辰	明治元年11月3日午前4時30分横浜港に帰着
明治元年	1868	29	28	戊辰	明治元年11月18日(1868年12月31日)尾高長七郎死去
明治元年	1868	29	28	戊辰	12月23日 宝台院で徳川慶喜に面会

和暦	グレゴリオ暦	数え年	満年齢	干支	
明治元年	1868	29	28	戊辰	12月 静岡藩士(勘定頭支配同組頭格御勝手懸り中老手附)となる
明治2年	1869	30	29	己巳	1月16日 商法会所を開設し頭取となる
明治2年	1869	30	29	己巳	明治2年5月18日(1869年6月27日)五稜郭が開城、武装解除、戊辰戦争が終結
明治2年	1869	30	29	己巳	6月17日 版籍奉還
明治2年	1869	30	29	己巳	明治2年7月8日布告第 622号「職員令」
明治2年	1869	30	29	己巳	7月27日 通称篤太夫を改め篤太郎と為す
明治2年	1869	30	29	己巳	9月1日 常平倉(廃止した商法会所の後継)を開設する
明治2年	1869	30	29	己巳	11月4日 民部省租税正に任ぜられる
明治2年	1869	30	29	己巳	11月下旬 民部省改正掛が設置され、掛長となる
明治2年	1869	30	29	己巳	1869年11月17日 スエズ運河開通式典
明治3年	1870	31	30	庚午	2月23日 次女 琴子誕生
明治3年	1870	31	30	庚午	1870年7月19日 普仏戦争始まる
明治3年	1870	31	30	庚午	明治3年9月19日 太政官布告第608号「平民苗字許可令」公布
明治3年	1870	31	30	庚午	閏10月 官営富岡製糸場事務主任となる
明治4年	1871	32	31	辛未	明治4年5月10日 金貨本位制を規定する新貨条例と造幣規則が公布される。共に栄一が起草立案したもの
明治4年	1871	32	31	辛未	明治4年5月11日 三女 糸子(伊登子)誕生
明治4年	1871	32	31	辛未	明治4年7月14日(1871年8月29日)廃藩置県
明治4年	1871	32	31	辛未	8月13日 大蔵大丞に任ぜられる
明治4年	1871	32	31	辛未	明治4年8月28日太政官布告第449号(グレゴリオ暦換算1871年10月12日)穢多非人等の称や身分の廃止などの旨を記す(解放令)
明治4年	1871	32	31	辛未	8月 大坂造幣局に出張
明治4年	1871	32	31	辛未	9月『立会略則』を著し、『会社弁』と共に大蔵省にて刊行する
明治4年	1871	32	31	辛未	明治4年11月12日(1871年12月23日)から明治6年(1873年)9月13日まで岩倉使節団がアメリカ合衆国およびヨーロッパ諸国を歴訪する
明治4年	1871	32	31	辛未	11月22日 父 市郎右衛門死去
明治4年	1871	32	31	辛未	12月 大蔵省紙幣寮紙幣頭を兼任する
明治5年	1872	33	32	壬申	2月 大蔵省三等出仕を仰付けられ、大蔵少輔事務取扱を命ぜられる
明治5年	1872	33	32	壬申	抄紙会社設立出願
明治5年	1872	33	32	壬申	4月 大蔵大輔井上馨と共に太陽暦に改むべきことを正院に建議する
明治5年	1872	33	32	壬申	6月10日 三女 糸子が病死
明治5年	1872	33	32	壬申	6月 杉浦靄山と共著の『航西日記』を刊行する
明治5年	1872	33	32	壬申	9月12日 新橋～横浜間に日本初の鉄道が開通
明治5年	1872	33	32	壬申	10月16日 次男 篤二誕生

和暦	グレゴリオ暦	数え年	満年齢	干支	
明治5年	1872	33	32	壬申	明治5年11月9日(1872年12月9日) 太政官布告337号(改暦ノ布告)公布。この布告によって、明治5年12月2日(1872年12月31日)をもって太陰太陽暦(天保暦)を廃止し、その翌日からグレゴリオ暦に移行、明治6年(1873)1月1日としたため、明治5年は12月3日から12月30日までの28日間が存在しない。(明治改暦)
明治6年	1873	34	33	癸酉	5月23日 大蔵省を退官する
明治6年	1873	34	33	癸酉	6月11日 第一国立銀行創立総会が開催され、総監役に就任する
明治6年	1873	34	33	癸酉	抄紙会社創立(後に王子製紙会社・取締役会長)
明治7年	1874	35	34	甲戌	11月 東京府知事より共有金の取締を囑託される
明治7年	1874	35	34	甲戌	1月7日 母 ぬい 死去
明治7年	1874	35	34	甲戌	2月 不平士族による初の大規模反乱である佐賀の乱が起こり激戦の末に鎮圧され11名が4月13日の判決当日に斬首となり江藤新平・島義勇は梟首にされる
明治8年	1875	36	35	乙亥	8月1日 第一国立銀行頭取に就任する
明治8年	1875	36	35	乙亥	8月3日 ホイットニーが家族とともに横浜に上陸
明治8年	1875	36	35	乙亥	9月13日 ホイットニー雇入れについて東京会議所とホイットニーとの間に約定書、東京会議所と森有礼の間に約定書が定められる
明治8年	1875	36	35	乙亥	9月24日 銀座尾張町二丁目二三番地に商法講習所の開業を東京会議所から東京府知事大久保一翁に届け出る。 (※一橋大学はこの届書の9月24日を創立記念日としている。)
明治8年	1875	36	35	乙亥	11月22日 森有礼、特命全権公使二等官に任ぜられ、清国在勤を命ぜられたため、校事を東京会議所に委任、以後同会議所の管理に属す。渋沢栄一は、この時会議所会頭であったので、この交渉に与かり積極的に助力する
明治8年	1875	36	35	乙亥	11月 高木貞作を商法講習所掛とし、ホイットニーとともに教務を司らせる
明治8年	1875	36	35	乙亥	12月19日 東京府知事大久保一翁が教部少輔に転出し、内務大丞楠本正隆が兼任東京府権知事となる
明治8年	1875	36	35	乙亥	12月 東京会議所会頭兼行務科頭取となる
明治9年	1876	37	36	丙子	1876年2月14日 ベルが電磁式電話の特許を申請 3月7日特許取得
明治9年	1876	37	36	丙子	5月11日 東京府より養育院事務長および瓦斯局事務長に任命される
明治9年	1876	37	36	丙子	5月15日 商法講習所を尾張町より京橋区木挽町10丁目に落成した校舎に移す(「沿革誌」による。「東京府職官表」には8月21日)
明治9年	1876	37	36	丙子	5月20日 商法講習所、東京府(勸業課)の管轄となる(「沿革誌」による。「商法講習所」には5月26日)
明治9年	1876	37	36	丙子	5月26日 矢野二郎が(東京府)商法講習所所長に任ぜられる
明治10年	1877	38	37	丁丑	1月22日 兼任東京府権知事楠本正隆が東京府知事となる
明治10年	1877	38	37	丁丑	2月15日 西郷隆盛が決起し西南戦争が始まる
明治10年	1877	38	37	丁丑	2月18日 東京会議所を解散する
明治10年	1877	38	37	丁丑	2月21日 三井組の番頭 三野村利左衛門が死去
明治10年	1877	38	37	丁丑	8月22日 杉浦譲が死去
明治10年	1877	38	37	丁丑	9月24日 西郷隆盛が切腹 西南戦争が終わる
明治10年	1877	38	37	丁丑	12月6日 エジソンが錫箔蓄音機「フォノグラフ」を発明

和暦	グレゴリオ暦	数え年	満年齢	干支	
明治10年	1877	38	37	丁丑	12月10日 渋沢栄一等が東京商法会議所設立願書を東京府知事に提出する
明治11年	1878	39	38	戊寅	3月11日 東京商法会議所設立が認可され、建物は東京府が木挽町に新築し、会議所へ下付することとなる(会頭渋沢栄一、副会頭益田孝および福地源一郎)
明治11年	1878	39	38	戊寅	3月 三菱商業学校を三菱会社が創設する
明治11年	1878	39	38	戊寅	4月1日 商法講習所はイギリス人メイヤー(F.A. Meyer)を試みに雇用して教務を司らせる
明治11年	1878	39	38	戊寅	5月14日 大久保利通が6人の不平士族に斬り殺される(紀尾井町事件)
明治11年	1878	39	38	戊寅	6月1日 商法講習所がホイトニーを解職する
明治11年	1878	39	38	戊寅	6月26日 商法講習所の所管が東京府勸業課から東京府学務課へ移る
明治11年	1878	39	38	戊寅	8月 東京商法会議所会頭ならびに内国商業事務委員に選ばれる
明治11年	1878	39	38	戊寅	8月 岩崎弥太郎から向島の柏屋に招かれ隅田川に屋形船を出す(※『青淵先生伝初稿』では明治一三年八月とある)
明治11年	1878	39	38	戊寅	11月1日 商法講習所がF.A. メイヤーを正式に雇い入れる
明治11年	1878	39	38	戊寅	11月15日 津田仙が学農社分校として簿記夜学校の創設を願い出る
明治11年	1878	39	38	戊寅	11月20日 学農社の簿記夜学校が開校(銀座2丁目)ホイトニーが教鞭をとる
明治12年	1879	40	39	己卯	4月15日 東京府会は商法講習所の要求予算を半額に修正する
明治12年	1879	40	39	己卯	5月 渋沢栄一等12名が1,200余円を拠出して講習所の経費を補充する
明治12年	1879	40	39	己卯	8月 東京府養育院院長に任命される
明治12年	1879	40	39	己卯	10月 三菱商業学校に商法講習所を払い下げてもらいたいという趣旨の願書を岩崎弥太郎が楠本正隆東京府知事に提出する
明治12年	1879	40	39	己卯	1879年10月21日 エジソンが白熱電球を発明
明治12年	1879	40	39	己卯	11月27日 府庁、東京商法会議所議員渋沢栄一、益田孝、福地源一郎、木村利右衛門、清水九兵衛、五名を挙げて商法講習所委員とし、規則を撰定させる
明治12年	1879	40	39	己卯	12月 松田道之東京府知事は商法講習所払い下げを求める岩崎弥太郎の願書を却下する
明治12年	1879	40	39	己卯	12月13日 ホイトニー一家、長男ウィリスがアメリカの大学で医学を勉強するため帰国の途に就く
明治13年	1880	41	40	庚辰	1月 足尾銅山組合に加盟し、出資者のひとりとなる
明治13年	1880	41	40	庚辰	1880年7月27日 イギリスが親ロシア派のアフガニスタン軍に大敗を喫する(第二次アフガン戦争のマイワンドの戦い)
明治13年	1880	41	40	庚辰	8月2日 東京府会で商法講習所の存続を決定する
明治13年	1880	41	40	庚辰	ドイツの化学者アドルフ・バイヤーが石炭由来の合成インディゴを開発
明治14年	1881	42	41	辛巳	4月27日 商法講習所規則ならびに教則について東京商法会議所会頭渋沢栄一から松田知事宛に上申される

和暦	グレゴリオ暦	数え年	満年齢	干支	
明治14年	1881	42	41	辛巳	7月15日 東京商法会議所会頭渋沢栄一は、農商務卿河野敏鎌宛に補助金の下付を依頼する
明治14年	1881	42	41	辛巳	7月26日 東京府会は、商法講習所の予算を否決し商法講習所の廃止を決議する
明治14年	1881	42	41	辛巳	7月28日 文部省地方学務局長辻新次から松田知事宛に講習所存置の希望を申し入れる
明治14年	1881	42	41	辛巳	7月29日 東京府知事より甲第109号をもって、商法講習所が7月31日付で廃止と布達される
明治14年	1881	42	41	辛巳	9月9日 商法講習所を再興する
明治14年	1881	42	41	辛巳	9月10日 府知事名により、東京府商法講習所更設
明治14年	1881	42	41	辛巳	第二次アフガン戦争(1878-1880)の結果イギリスはアフガニスタンを保護国とする
明治15年	1882	43	42	壬午	1月 銀行集会所の委員となる
明治15年	1882	43	42	壬午	3月24日 コッホが結核菌を発見
明治15年	1882	43	42	壬午	4月6日 自由党党首板垣退助が相原尚毅に襲われ負傷(岐阜事件)
明治15年	1882	43	42	壬午	4月25日 長女 歌子が穂積陳重と結婚する
明治15年	1882	43	42	壬午	大隈重信が東京専門学校を創立する(早稲田大学の前身)
明治15年	1882	43	42	壬午	7月14日 妻 千代がコレラで病死
明治15年	1882	43	42	壬午	8月29日 ホイットニーがロンドンで病死
明治15年	1882	43	42	壬午	10月10日 日本銀行営業開始
明治16年	1883	44	43	癸未	1月18日 伊藤八兵衛の五女 かね子と再婚
明治16年	1883	44	43	癸未	3月12日 大阪紡績株式会社相談役となる
明治16年	1883	44	43	癸未	6月 ニーチェ『ツァラトストラはこう語った』第1部出版
明治16年	1883	44	43	癸未	7月20日 岩倉具視死去
明治16年	1883	44	43	癸未	11月 東京商工会会頭に選挙される
明治16年	1883	44	43	癸未	11月28日 鹿鳴館落成の祝宴
明治17年	1884	45	44	甲申	3月 駐英公使森有礼がロンドンから帰国する
明治17年	1884	45	44	甲申	3月25日 商法講習所を農商務省の直轄に移し「東京商業学校」と改称する
明治17年	1884	45	44	甲申	6月10日 農商務省が渋沢栄一・益田孝・富田鉄之助に東京商業学校校務商議委員を囑託する
明治17年	1884	45	44	甲申	7月 浅野セメント工場成立し、経営を援助する
明治18年	1885	46	45	乙酉	2月7日 岩崎弥太郎死去
明治18年	1885	46	45	乙酉	5月14日 東京商業学校が農商務省所轄より文部省の所轄となる
明治18年	1885	46	45	乙酉	9月22日 「東京商業学校」、「東京外国語学校」および同校所属高等商業学校を併せてさらに、「東京商業学校」と称し、神田区一橋通町一番地、旧東京外国語学校舎にこれを開設する ▽文部省御用掛森有礼、校務を監督し、矢野二郎、前任のまま校長となり、前任商議委員を挙げて、本校商議員とする
明治18年	1885	46	45	乙酉	10月 日本郵船会社創立(後に取締役)
明治18年	1885	46	45	乙酉	11月 ファン・スタッペンが東京商業学校を辞して帰国する



和暦	グレゴリオ暦	数え年	満年齢	干支	
明治18年	1885	46	45	乙酉	11月19日 東京養育院院長
明治18年	1885	46	45	乙酉	東京瓦斯会社創立(創立委員長、後に取締役会長)
明治18年	1885	46	45	乙酉	パストゥールが狂犬病ワクチンを開発
明治19年	1886	47	46	丙戌	1月21日「商工徒弟講習所」を木挽町旧校舎に開き、東京商業学校の附属とし、商工の子弟に実用卑近の学術を授けることとする
明治19年	1886	47	46	丙戌	4月 竜門社が創立される
明治19年	1886	47	46	丙戌	5月26日 大蔵省所轄銀行事務講習所を文部省の所轄とし、東京商業学校に附属させ、銀行専修科と称する
明治19年	1886	47	46	丙戌	東京電灯会社設立(後に委員)
明治19年	1886	47	46	丙戌	12月 アルチュール・マリシャルを東京商業学校が商業学科教授および商業商品陳列所整理方担当として招聘する
明治19年	1886	47	46	丙戌	12月26日 五男 武之助誕生
明治19年	1886	47	46	丙戌	12月26日 東京商業学校校務商議委員 渋沢栄一・益田孝・富田鉄之助三氏文部省より校務商議委員として商業教育に尽瘁せる功勞嘉賞の辞令を受ける
明治20年	1887	48	47	丁亥	コナン・ドイル『緋色の研究』刊行
明治20年	1887	48	47	丁亥	ザメンホフがエスペラントの文法書・単語集を発表
明治20年	1887	48	47	丁亥	8月 東京商業学校にて修学旅行規定を定める。その主旨は、学年の成績優等な者若干名を選び、予めその場所を定め旅費若干を給して夏季休業中地方商工業の状況を視察させ、その報告書を提出させる。これより毎年施行
明治20年	1887	48	47	丁亥	10月5日 東京商業学校が「高等商業学校」と改称する
明治20年	1887	48	47	丁亥	10月 日本煉瓦製造会社創立にあたり理事となる
明治20年	1887	48	47	丁亥	11月 帝国ホテル創立にあたり発起人総代となる
明治20年	1887	48	47	丁亥	12月 東京人造肥料会社創立委員長となる
明治20年	1887	48	47	丁亥	12月 東京手形交換所委員となる
明治21年	1888	49	48	戊子	明治21(1888)年2月26日 次女琴子が阪谷芳郎と結婚
明治21年	1888	49	48	戊子	9月11日 東京女学館開校・会計監督(後に館長)
明治21年	1888	49	48	戊子	11月1日 六男 正雄誕生
明治22年	1889	50	49	己丑	2月11日 大日本帝国憲法公布式典に参加するため官邸を出た文部大臣森有礼が国粹主義者に短刀で刺され、翌日午前5時に死去
明治22年	1889	50	49	己丑	3月19日 高等商業学校にて第1回卒業証書授与式を挙る。商法講習所創立以来の卒業生118名、旧銀行事務講習所から主計専修科に至るまでの卒業生55名に卒業証書を正式に授与
明治22年	1889	50	49	己丑	10月18日 大隈重信が来島恒喜に爆弾を投げつけられ右脚を失う(大隈遭難事件)
明治22年	1889	50	49	己丑	1889年 ドイツに留学中の北里柴三郎が破傷風菌の純粋培養に成功
明治23年	1890	51	50	庚寅	7月24日 五女 愛子誕生
明治23年	1890	51	50	庚寅	11月3日 帝国ホテル会社開業
明治24年	1891	52	51	辛卯	インフルエンザ流行のため高等商業学校が1月末より2週間休業

和暦	グレゴリオ暦	数え年	満年齢	干支	
明治24年	1891	52	51	辛卯	2月28日 東京手形取引所及其附属手形交換所解散し、尋いで3月1日より新たに東京手形交換所を設立、渋沢は委員長となる
明治24年	1891	52	51	辛卯	5月11日 日本を訪問中のロシア帝国皇太子・ニコライ(後の皇帝ニコライ2世)が、警備にあっていた警察官・津田三蔵に斬りつけられ負傷する(大津事件)
明治24年	1891	52	51	辛卯	5月17日 家法を作り同族会議を興す
明治24年	1891	52	51	辛卯	7月 東京商業会議所会頭となる
明治24年	1891	52	51	辛卯	12月25日 学生、校長矢野二郎に心服せず60余名打ち連れ辞職勧告をする
明治25年	1892	53	52	壬辰	1月10日 高等商業学校矢野二郎校長排斥事件の発動者たる本科2年生45名に退学を命ずる
明治25年	1892	53	52	壬辰	10月5日 七男 秀雄誕生
明治25年	1892	53	52	壬辰	11月21日 高等商業学校の第2回卒業証書授与式を挙行。明治23年以後の本科卒業生56名、および明治22年以後の附属主計学校卒業生125名に卒業証書を授与する。栄一は出席し演説する
明治25年	1892	53	52	壬辰	12月11日 東京市上水道鉄管購入に関し暴漢の襲撃を受ける
明治26年	1893	54	53	癸巳	4月27日 矢野二郎が高等商業学校長を免ぜられる
明治26年	1893	54	53	癸巳	6月19日 文部省参事官由布武三郎を高等商業学校長に任ずる
明治26年	1893	54	53	癸巳	12月 日本郵船取締役役に就任
明治27年	1894	55	54	甲午	日清戦争勃発
明治27年	1894	55	54	甲午	11月18日 右頬の顔面上皮癌を手術で切除する。これを契機として飲酒・喫煙をやめる
明治28年	1895	56	55	乙未	明治28年4月17日(光緒21年3月23日)下関条約(日清講和条約)
明治28年	1895	56	55	乙未	4月23日 三国干涉
明治28年	1895	56	55	乙未	8月27日 高等商業学校校長由布武三郎は文部省参事官に専任し、文部大臣秘書官小山健三が校長に任ぜられる
明治29年	1896	57	56	丙申	1896年4月6日から4月15日まで(当時のギリシャのユリウス暦では3月25日から4月3日まで)近代オリンピックの第1回としてアテネオリンピックが開催される
明治29年	1896	57	56	丙申	8月25日 渋沢敬三(渋沢篤二と敦子の長男)誕生
明治29年	1896	57	56	丙申	11月23日 樋口一葉死去
明治30年	1897	58	57	丁酉	貨幣法(明治30年3月29日法律第16号)10月1日施行、金本位制確立
明治31年	1898	59	58	戊戌	6月6日 高等商業学校の校長に東京帝国大学書記官清水彦五郎が任ぜられ、神田乃武は校長心得を免ぜられる
明治31年	1898	59	58	戊戌	6月 高等商業学校学生、新校長の任命を不満として排斥運動を起こす。渋沢栄一等商議委員を動かし学生と当局との間の調停に努める(清水校長排斥事件)
明治31年	1898	59	58	戊戌	8月12日 アメリカはハワイ共和国を併合、米自治領ハワイ準州となる
明治32年	1899	60	59	己亥	1月19日 勝海舟死去
明治32年	1899	60	59	己亥	4月4日 高等商業学校附属外国語学校を「東京外国語学校」と改称し、高等商業学校より分離する

和暦	グレゴリオ暦	数え年	満年齢	干支	
明治32年	1899	60	59	己亥	6月19日 栄一、王子飛鳥山別邸内に茶室を新築し、是日同族を招き、益田克徳の斡旋にて茶室開きの茶会を催す
明治33年	1900	61	60	庚子	日本興業銀行設立委員
明治33年	1900	61	60	庚子	カール・ラントシュタイナーがABO式血液型を発見
明治33年	1900	61	60	庚子	5月9日 華族に列し男爵に叙せられる
明治33年	1900	61	60	庚子	7月1日 高等商業学校講堂で同窓会が還暦並に授爵の祝賀会を開催、栄一は謝辞を述べると共に商業教育を大学程度に高めることの必要を力説する
明治33年	1900	61	60	庚子	10月27日 高等商業学校同窓会秋季総会で商業学校程度問題に関して次のように決議される。「本会は我国に商業大学設置の必要を認む。」この目的を達するために常議員に臨機の処置をなすことを委任する。その入費は同窓会で負担する
明治34年	1901	62	61	辛丑	1月2日 尾高惇忠死去
明治34年	1901	62	61	辛丑	2月3日 福澤諭吉死去
明治34年	1901	62	61	辛丑	4月 日本女子大学校開校。会計監督となる
明治34年	1901	62	61	辛丑	6月 高等商業学校専攻部規程を改正。「第六条、専攻部を卒業した者は「商業学士」と称することを得」の一条が追加される
明治35年	1902	63	62	壬寅	3月27日 勅令第98号をもって高等商業学校は「東京高等商業学校」と改称する(4月1日施行)
明治35年	1902	63	62	壬寅	4月20日 動物虐待防止会の発起人会。広井辰太郎らが設立。洪沢栄一も発起人のひとり
明治35年	1902	63	62	壬寅	5月欧米視察に出る。6月セオドア・ルーズヴェルト大統領と会見。9月帰国
明治35年	1902	63	62	壬寅	7月 欧米漫遊中の洪沢男爵、同窓会ロンドン支部およびリヨン支部において商業大学設置必要論を講演する
明治35年	1902	63	62	壬寅	12月12日 洪沢男爵ほか二氏帰国歓迎会において、福田徳三が商業大学設置論について演説を行なう
明治36年	1903	64	63	癸卯	第3回ノーベル物理学賞をピエール・キュリーとマリー・キュリーが受賞
明治36年	1903	64	63	癸卯	12月17日 ライト兄弟が飛行機の初飛行に成功
明治37年	1904	65	64	甲辰	2月 日露戦争勃発
明治37年	1904	65	64	甲辰	4月28日 発熱し肺炎に冒されて臥床する
明治37年	1904	65	64	甲辰	11月 中耳炎を併発する
明治38年	1905	66	65	乙巳	ユリウス暦1905年1月9日(グレゴリオ暦1月22日)サンクトペテルブルクで血の日曜日事件
明治38年	1905	66	65	乙巳	アインシュタインが特殊相対性理論を発表
明治38年	1905	66	65	乙巳	1905年(明治38年)9月4日(日本時間では9月5日)ポーツマス条約(日露講和条約)
明治38年	1905	66	65	乙巳	ベルタ・フォン・ズットナーがノーベル平和賞を受賞
明治38年	1905	66	65	乙巳	マックス・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』
明治39年	1906	67	66	丙午	6月8日 東京を発し韓国視察の途に上る。28日京城で韓国皇帝に謁し7月18日帰京。
明治40年	1907	68	67	丁未	2月23日「商科大学設立に関する建議案」が衆議院において可決、貴族院においては3月26日通過する

和暦	グレゴリオ暦	数え年	満年齢	干支	
明治40年	1907	68	67	丁未	2月28日 帝国劇場株式会社創立総会。創立委員長たるを以て議長席につき取締役会長に推される
明治40年	1907	68	67	丁未	7月22日 東京慈恵会理事兼副会長
明治40年	1907	68	67	丁未	ベークランドが人工合成樹脂「ベークライト」の合成に成功し特許を取得
明治41年	1908	69	68	戊申	T型フォード生産開始、アメリカにモーターリゼーションをもたらす
明治41年	1908	69	68	戊申	東京高等商業学校 申酉事件(しんゆうじけん)の第1年 明治41年戊申(つちのえさる)(1908)
明治41年	1908	69	68	戊申	4月30日 都下諸新聞、東京帝国大学法科大学内に新たに経済科設置、9月新学期より開始のことを報ずる
明治41年	1908	69	68	戊申	7月14日 西園寺内閣総辞職し、第二次桂太郎内閣成立する
明治41年	1908	69	68	戊申	7月 渋沢栄一、商業大学問題について、新文部大臣小松原栄太郎を訪問する
明治41年	1908	69	68	戊申	10月7日 中央慈善協会設立、会長に就任
明治42年	1909	70	69	己酉	東京高等商業学校 申酉事件(しんゆうじけん)の第2年 明治42年己酉(つちのととり)(1909)
明治42年	1909	70	69	己酉	2月27日 東京高等商業学校第3回学生大会を開く。学生有志、全校1,300名の賛成を得て文部大臣ならびに両院議長に大学問題につき請願書を提出しようとして、松崎蔵之助校長にその進達を請う。松崎校長これを峻拒し専攻部1年生5名退学、1名無期停学を命じられる。校長排斥の声おこる
明治42年	1909	70	69	己酉	3月1日 東京高等商業学校第4回学生大会を開く。商議員渋沢栄一、学生大会に臨み一同に対して懇切な慰撫演説を行なう
明治42年	1909	70	69	己酉	4月 癌研究会副総裁に就任
明治42年	1909	70	69	己酉	4月24日 東京高等商業学校 学生大会開催。文部省が帝大教授会に対し法科大学内に商科の設置を諮問したことを論難
明治42年	1909	70	69	己酉	5月11日 午前10時 東京高等商業学校全校委員会、午前11時15分学生大会にて学生総退学を決議し、午後5時校門前において「去校之辞」を朗読する
明治42年	1909	70	69	己酉	5月23日 同窓会主催の学生大会に渋沢栄一出席し商議員会を代表して学生に懇諭、学生等遂に勧説に服し翌日より復校
明治42年	1909	70	69	己酉	数え年70歳の古稀を機会に多くの関係会社・団体からその職任を辞することとする。6月6日 渋沢事務所に関係者を招いてその意を伝える
明治42年	1909	70	69	己酉	8月 渡米実業団団長として訪米。9月タフト大統領と会見。12月帰国
明治42年	1909	70	69	己酉	10月26日 伊藤博文がハルビン駅で射殺される
明治43年	1910	71	70	庚戌	メキシコ革命始まる
明治43年	1910	71	70	庚戌	7月3日 徳川昭武死去
明治43年	1910	71	70	庚戌	8月29日 韓国併合
明治44年	1911	72	71	辛亥	辛亥革命
明治44年	1911	72	71	辛亥	6月 帝国劇場第5回興行に、栄一義子渋沢平九郎戦死の件を脚色した演劇「振武軍」上演。6月28日 栄一は興行出演俳優慰労会に出席して俳優一同に平九郎肖像入りの扇子を贈る
明治44年	1911	72	71	辛亥	11月24日 ローマ字ひろめ会秋期大会が開催され、渋沢栄一は出席して阪谷芳郎等と共に演説する

和暦	グレゴリオ暦	数え年	満年齢	干支	
明治45年	1912	73	72	壬子	3月25日 明治42年文部省令第14号を廃し、文部省令第9号をもって高等商業学校専攻部を存続させ、専攻部規程が定められる
明治45年	1912	73	72	壬子	明治45(1912)年7月30日 睦仁天皇が崩御
明治45年 /大正元年	1912	73	72	壬子	明治45(1912)年7月30日 嘉仁親王が天皇に即位。大正に改元
大正元年	1912	73	72	壬子	8月30日 渋沢喜作死去
大正2年	1913	74	73	癸丑	タゴールがノーベル文学賞を受賞
大正2年	1913	74	73	癸丑	7月 文部大臣奥田義人、商業大学問題解決について、渋沢栄一を通し東京高等商業学校商議員の意見を聴取する
大正2年	1913	74	73	癸丑	10月 東京高等商業学校学生有志、商業大学問題について奔走を始める
大正2年	1913	74	73	癸丑	10月10日 日本実業協会発起人郷誠之助等と会見し会長就任を請われ受諾する
大正2年	1913	74	73	癸丑	11月19日 奥田義人文部大臣より渋沢栄一へ懇請の結果、商業大学問題について実業家側の東京高等商業学校商議員会が開催される
大正2年	1913	74	73	癸丑	11月22日 徳川慶喜死去
大正2年	1913	74	73	癸丑	12月10日 商業大学問題、文部省側意見と東京高等商業学校側の主張との間にとうてい妥協すべき余地の無いことを発見、ついに不調に終わる
大正2年	1913	74	73	癸丑	12月11日 一橋会臨時大会を開催。委員会における商業大学問題の経過を報告して一橋の将来を議する
大正3年	1914	75	74	甲寅	1月 同窓会会誌91号に「商大問題之経過」が報告される
大正3年	1914	75	74	甲寅	5月2日神戸を出航、6日上海に上陸、南京・北京・天津・大連等の各地を巡歴の上、6月2日旅順より乗船、4日下関に帰着する
大正3年	1914	75	74	甲寅	6月28日 サラエヴォ事件 第一次世界大戦が始まる
大正3年	1914	75	74	甲寅	8月15日 パナマ運河開通
大正3年	1914	75	74	甲寅	11月14日 如水会創立総会開催
大正4年	1915	76	75	乙卯	1月18日 日本が中華民国政府に対し対華21ヶ条要求
大正4年	1915	76	75	乙卯	4月1日 渋沢同族会社創立
大正4年	1915	76	75	乙卯	9月1日 井上馨死去
大正4年	1915	76	75	乙卯	9月1日 リョコウバトが絶滅(オハイオ州のシンシナティ動物園で飼育されていた最後の個体が死亡)
大正4年	1915	76	75	乙卯	10月23日横浜を出航、11月8日サン・フランシスコに上陸、アメリカ合衆国各地を巡歴の上、12月18日サン・フランシスコを発し、ホノルル経由、大正5年1月4日横浜に帰着
大正5年	1916	77	76	丙辰	7月 第一銀行頭取を退任。数え年77歳の喜寿を機会に実業界を引退。専心公共・社会事業方面にその余勢を捧げる。10月6日引退披露会
大正5年	1916	77	76	丙辰	9月 渋沢栄一述・梶山彬編『論語と算盤』を刊行
大正5年	1916	77	76	丙辰	12月9日 夏目漱石死去
大正6年	1917	78	77	丁巳	3月27日 理化学研究所設立者総会。栄一は評議員に推される

和暦	グレゴリオ暦	数え年	満年齢	干支	
大正6年	1917	78	77	丁巳	6月23日 東京高等商業学校に於て商業道德に関する講演 第1回「経済と道德」。この講演は正科「修身」科の時間に行われたものに付、科外講演ではない。以後、大正8年1月30日第9回に至る
大正6年	1917	78	77	丁巳	9月29日 東京高等商業学校に於て商業道德に関する講演 第2回「人とは何ぞや」
大正6年	1917	78	77	丁巳	10月27日 東京高等商業学校に於て商業道德に関する講演 第3回
大正6年	1917	78	77	丁巳	10月27日 東京高等商業学校講堂で銅像除幕式。喜寿を記念して如水会が製作したもの
大正6年	1917	78	77	丁巳	ユリウス暦1917年10月25日(グレゴリオ暦換算11月7日) ペトログラードで十月革命
大正6年	1917	78	77	丁巳	11月24日 東京高等商業学校に於て商業道德に関する講演 第4回
大正6年	1917	78	77	丁巳	12月 山下亀三郎氏より洪沢男爵の喜寿を記念して東京高等商業学校に1万円の寄贈があり、学術研究図書購入のうえ「洪沢文庫」として記念する
大正7年	1918	79	78	戊午	1月 洪沢栄一著『徳川慶喜伝』(竜門社)刊行
大正7年	1918	79	78	戊午	2月8日 東京高等商業学校に於て商業道德に関する講演 第5回
大正7年	1918	79	78	戊午	6月20日 東京高等商業学校に於て商業道德に関する講演 第6回
大正7年	1918	79	78	戊午	7月 米騒動
大正7年	1918	79	78	戊午	9月2日 田園都市株式会社創立総会。栄一、中野武堂・星野錫・服部金太郎・柿沼谷雄等と共に発起人
大正7年	1918	79	78	戊午	10月10日 東京高等商業学校に於て商業道德に関する講演 第7回
大正7年	1918	79	78	戊午	11月28日 東京高等商業学校に於て商業道德に関する講演 第8回
大正7年	1918	79	78	戊午	12月6日 新大学令、高等学校令が公布される
大正7年	1918	79	78	戊午	1918年から1920年にかけてH1N1亜型インフルエンザが世界的に大流行
大正8年	1919	80	79	己未	1月30日 東京高等商業学校に於て商業道德に関する講演 第9回
大正8年	1919	80	79	己未	3月4日 成瀬仁蔵死去
大正8年	1919	80	79	己未	5月12日 二松學舎の創立者 三島中洲が死去
大正8年	1919	80	79	己未	5月 アメリカ合衆国政府より日米船鉄交換に関する争議仲裁人たることを委嘱せられ、これを承諾する
大正8年	1919	80	79	己未	6月13日 阪谷芳郎と共に、サン・フランシスコ禁酒同盟会幹事 ディー・エム・ガンジエを、東京銀行倶楽部に招き、午餐会を催す。終つて講演会に移り、栄一挨拶をなす
大正8年	1919	80	79	己未	6月28日 ヴェルサイユ条約調印 第一次世界大戦終結
大正8年	1919	80	79	己未	7月13日 大日本文明協会主催学術講演会を東京高等商業学校講堂にて挙行、栄一は労資問題について演説する
大正8年	1919	80	79	己未	7月16日 板垣退助死去
大正8年	1919	80	79	己未	9月29日 如水会館開館式で祝辞を述べる
大正9年	1920	81	80	庚申	1月10日 国際連盟発足

和暦	グレゴリオ暦	数え年	満年齢	干支	
大正9年	1920	81	80	庚申	1月16日 アメリカ合衆国憲法修正第18条が施行され禁酒法時代が始まる(製造・販売・移動を禁止、飲酒そのものは禁じられていなかった)
大正9年	1920	81	80	庚申	4月1日 勅令第71号により大学令に基づく東京商科大学設立(大学昇格)
大正9年	1920	81	80	庚申	4月23日 国際聯盟協会発起人会。推されて会長となる
大正9年	1920	81	80	庚申	6月18日 日華実業協会創立総会開催、会長に推挙される。栄一は病気のため欠席
大正9年	1920	81	80	庚申	9月4日 子爵に陞爵される
大正9年	1920	81	80	庚申	9月22日 東京商科大学創立45年記念式が挙行され、渋沢栄一の講演あり
大正10年	1921	82	81	辛酉	5月21日 野口英世死去
大正10年	1921	82	81	辛酉	9月28日 安田善次郎が朝日平吾に刺殺される
大正10年	1921	82	81	辛酉	10月 英米訪問実業団を組織し渡米。ハーディング大統領と会見
大正10年	1921	82	81	辛酉	11月4日 原敬首相が刺殺される
大正10年	1921	82	81	辛酉	11月25日 皇太子裕仁親王が摂政に就任
大正11年	1922	83	82	壬戌	1月10日 大隈重信死去
大正11年	1922	83	82	壬戌	2月11日 エヂソン翁第七十五回誕辰祝賀会を日本工業倶楽部で開催
大正11年	1922	83	82	壬戌	7月22日 高峰讓吉死去
大正12年	1923	84	83	癸亥	5月30日 東京商科大学専門部会総務理事、佐野善作学長から「専門部および養成所は大正12年限り生徒募集を終り、大正15年にこれを廃止し、横浜高等商業学校として存続させる」旨の覚書を受け、不同意の場合はこれに代わる良策を提出するよう求められる
大正12年	1923	84	83	癸亥	6月30日 東京商科大学専門部および養成所廃止問題の調査が完了し、第2回学生大会が開かれる。廃止反対意見が有力である事実が判明し、ただちに実行委員会を組織して存続運動を開始する
大正12年	1923	84	83	癸亥	7月29日 東京商科大学専門部および養成所廃止問題に対し、如水会幹部の尽力(如水会有志の中から50万円の寄付金を募集し、これを学校に提供して引き続き存続させること)および専門部学生の活動により円満存続の解決を見る
大正12年	1923	84	83	癸亥	大正12(1923)年9月1日土曜日11時58分関東大地震が発生
大正12年	1923	84	83	癸亥	9月11日 大震災善後会を組織し、その副会長となる
大正12年	1923	84	83	癸亥	12月27日 皇太子・摂政宮 裕仁親王(後の昭和天皇)が難波大助に散弾銃で狙撃されるが命中せず(虎ノ門事件)
大正12年	1923	84	83	癸亥	12月30日 神田乃武死去
大正13年	1924	85	84	甲子	3月 東京女学館第5代館長
大正13年	1924	85	84	甲子	3月18日 日仏会館創立委員会に出席し理事長に選ばれる
大正13年	1924	85	84	甲子	7月1日 アメリカで排日移民法施行
大正13年	1924	85	84	甲子	12月27日以降 宿痾の喘息療養のため湯河原に転地
大正14年	1925	86	85	乙丑	3月2日 大磯に転地し20日帰京。爾後9月まで飛鳥山邸に引籠り専ら静養に努める

和暦	グレゴリオ暦	数え年	満年齢	干支	
大正14年	1925	86	85	乙丑	治安維持法(大正14年4月22日法律第46号)制定
大正14年	1925	86	85	乙丑	普通選挙法(大正14年5月5日法律第47号)制定
大正14年	1925	86	85	乙丑	5月23日 日本無線電信株式会社設立委員長
大正14年	1925	86	85	乙丑	10月 渋沢栄一口話・尾高維孝筆述『論語講義』を二松学舎出版部より刊行
大正15年	1926	87	86	丙寅	4月6日 太平洋問題調査会第1回評議員会に出席して理事及び監事を推薦し、引続き第1回理事会を開く
大正15年	1926	87	86	丙寅	8月6日 日本放送協会創立、顧問となる
大正15年	1926	87	86	丙寅	大正15(1926)年12月25日 嘉仁天皇が崩御
大正15年 /昭和元年	1926	87	86	丙寅	大正15(1926)年12月25日 裕仁親王が天皇に即位 昭和に改元
昭和2年	1927	88	87	丁卯	2月19日 日本国際児童親善会が組織され、栄一は会長となる
昭和2年	1927	88	87	丁卯	3月3日 親善人形歓迎会を日本青年館で開催
昭和2年	1927	88	87	丁卯	4月20日 保井コノが日本初の女性博士となる(理学)
昭和2年	1927	88	87	丁卯	7月2日 温故学会会館の開館式を挙行、栄一は維持会員総代として式辞を述べる
昭和2年	1927	88	87	丁卯	7月24日 芥川龍之介死去
昭和2年	1927	88	87	丁卯	12月30日 日本で最初の地下鉄が開通 浅草-上野間約2.2km
昭和3年	1928	89	88	戊辰	4月22日 大倉喜八郎死去
昭和3年	1928	89	88	戊辰	7月10日 日本航空輸送株式会社発起人小集会在、20日には発起人総会が開かれる。栄一は病気のため欠席したが、創立委員長としてこれに与る
昭和3年	1928	89	88	戊辰	10月1日 子爵渋沢栄一閣下米寿祝賀会を実業界有志が開催
昭和4年	1929	90	89	己巳	8月16日 津田梅子死去
昭和4年	1929	90	89	己巳	10月中央盲人福祉協会創立、11月会長に就任
昭和4年	1929	90	89	己巳	10月24日 暗黒の木曜日 世界恐慌始まる
昭和5年	1930	91	90	庚午	4月12日 アレキサンダー・アラン・シャンド死去
昭和5年	1930	91	90	庚午	5月8日 福田徳三死去
昭和5年	1930	91	90	庚午	11月8日 救護法実施促進期成同盟会委員の請に応じ、病を押して内務大臣安達謙蔵を訪う
昭和5年	1930	91	90	庚午	11月9日 浅野総一郎死去
昭和5年	1930	91	90	庚午	11月14日 浜口雄幸首相が東京駅で拳銃で撃たれ重傷を負う
昭和6年	1931	92	91	辛未	渋沢栄一がベルギーのバツソルピエール大使と共に如水会の初代名誉社員となる
昭和6年	1931	92	91	辛未	1月21日 癩予防協会会頭ならびに理事に就任
昭和6年	1931	92	91	辛未	4月25日 日本女子大学第3代校長に就任
昭和6年	1931	92	91	辛未	6月13日 北里柴三郎死去
昭和6年	1931	92	91	辛未	6月 東京商科大学学長佐野善作辞意あり、渋沢栄一の慰留により留任する
昭和6年	1931	92	91	辛未	9月1日 上越線の清水トンネル開通
昭和6年	1931	92	91	辛未	9月18日 柳条湖事件を発端に満州事変始まる



和暦	グレゴリオ暦	数え年	満年齢	干支	
昭和6年	1931	92	91	辛未	10月1日 大蔵省の内示した行財政整理準備委員会の整理原案中に東京商科大学の予科および専門部の廃止の項があることが、『東京日日新聞』朝刊に報じられる。この廃止案は当局が秘密裡に進めていたものであるが、学校関係者が感知したのは9月29日の夜であった。実際の判明はこの新聞紙上による
昭和6年	1931	92	91	辛未	10月3日 午前11時、藤村如水会理事長は堀、木村両主事および内池教授とともに洪沢子爵を訪問、子爵病中のこととして代理として中島久万吉男爵に各要路に対する運動方を依頼(籠城事件)
昭和6年	1931	92	91	辛未	10月6日 午前9時、一ツ橋において学生大会を開催。午前10時、学生構内デモを行なう。午後3時半、学生、隊をなして構外で行進中、警官と大衝突し、検束者117名におよび児玉正之君重症入院する。官邸にて学生代表、内相と会見
昭和6年	1931	92	91	辛未	10月8日 午前10時、一ツ橋において学生大会を開催。総退学を決議し、退学届けは統制本部に一括保存に決する。午後1時半、学生大会再開。学生代表、最後の確答を求めべく文部大臣を訪問。午後4時半会見、午後7時半、学生大会を開催、籠城解散を決議する。午後8時半、解散指令。午後9時より10時半までに各クラス会毎に解散する
昭和6年	1931	92	91	辛未	11月11日 午前1時50分 永眠
昭和6年	1931	92	91	辛未	11月15日 青山斎場にて葬儀 谷中の洪沢家墓地に埋葬